

介護ロボット等を活用した「先進的介護」の実証事業について ～ 令和元年度事業報告 ～

【報告概要】

- 令和元年度は、「北九州モデル」の構築に向けた実証事業において、介護現場の生産性向上を達成
- 今後は、市内の介護施設へ「北九州モデル」として横展開を推進
- 横展開を行う上での課題解決に向け、市内の支援拠点の整備や国への積極的な働きかけを実施

1 実証事業の概要

(1) 実証施設

社会福祉法人 春秋会 好日苑大里の郷（門司区）

施設種別：地域密着型特別養護老人ホーム（ユニット型）

(2) 実証期間

令和元年9月1日～12月7日

(3) 実証内容

① センサーやICTを組み合わせることによる、職員の負担軽減と利用者の安心・安全に配慮した見守り

【導入機器等】



<整備状況>

- ・2種類のセンサーを全居室に設置
- ・Wi-Fi環境を整備

<期待できる効果>

- ・夜間の定時巡視の削減
- ・どこにいても利用者の様子を把握できる安心感
- ・転倒に繋がる行動の早期発見と対応
- ・利用者の睡眠やプライバシーの確保

② 移乗支援機器等の活用による抱きかかえない移乗ケアの提供

【導入機器等】



<整備状況>

- ・機器動線に配慮した活用（SASUKE）
- ・職員の意見を取り入れて独自導入（リフト）

<期待できる効果>

- ・腰痛予防
- ・年齢や経験に関わらず一人で移乗介助を行える
- ・機器使用時に利用者とのコミュニケーションを取れる
- ・抱えられる痛み等の軽減

③ 安心・安全な環境づくりと元気高齢者の活躍

【導入機器等】



<整備状況>

- ・施設全体で情報共有
- ・非介護業務のアウトソーシング

<期待できる効果>

- ・職員間で随時情報共有できる安心感及び業務効率化
- ・事故発生時の対応迅速化
- ・アウトソーシングによる負担軽減と専門性の向上

④ アプリの集約による利便性向上と利用者のQOL向上等を目指した介護記録システム・見守りセンサーのプラットフォーム化

【導入機器等】



<整備状況>

- ・記録情報やセンサー情報を自動集約できる環境整備
- ・1つの端末にアプリを集約

<期待できる効果>

- ・センサー情報の自動記録による記録時間の削減と情報精度の向上
- ・複数の端末を所持する状態の解消
- ・集約したデータの分析・活用によるケアの質の向上

2 実証の成果

◎ 実証期間中、介護保険法における地域密着型特別養護老人ホーム（ユニット型）の人員配置基準「3：1」に近づく「2.87：1」での運用を実現

(1) 全体の業務時間を35%削減

夜勤帯の業務時間を33%削減 <図1>

⇒ 夜勤職員1人分の業務量に相当

(2) 夜間の見守り業務で、居室の定期巡回等の時間を約62%削減 <図2>

⇒ 見守り支援機器の導入等により、職員の夜間定期巡回を廃止

(3) 職員へのインタビュー調査から

- ・ 夜間の定期巡回を廃止し、利用者の睡眠の妨げを防いだことや、業務時間の削減による利用者との会話が増えたこと等により、利用者の生活の質（QOL）が低下しなかったことを確認 <図3>
- ・ ICT・介護ロボット等の活用により、職員が業務の効率化を実感 <図4>
- ・ 多職種連携が強化され、専門職としての意識が高まったことを確認

(4) アクシデント件数は変化なし（ヒヤリハット件数は減少）

⇒ 介護ロボット等の導入で、利用者の安全性確保に支障がないことを確認

(5) 介護の質や利用者のQOLを維持しつつ、介護現場の生産性向上に資する「北九州モデル」の手法を確立 <図5>

⇒ 今後は、この手法を用い、市内の介護施設へ介護ロボット等の導入を積極的に支援

3 実証後の状況

(1) 実証施設では、夜勤体制を3名から2名へ変更、日勤帯に人員をシフト

⇒ 職員の負担軽減と有給休暇を取得しやすい職場環境の実現（働き方改革）

(2) 国に対するアピール

⇒ 国の「全世代型社会保障検討会議」（令和2年2月19日）において本市の実証事例を紹介

⇒ 国の令和2年度事業において、ICT・介護ロボット等の導入に係る補助が拡充

4 「北九州モデル」の横展開に向けての課題と対策

(1) 専門家による導入に向けた技術的な助言や、現場の業務改善へのサポートが必要

⇒ コンサルテーション機能を有する拠点を整備し、施設が求める支援を提供

(2) ICT・介護ロボット等の導入・運用費用の負担軽減が必要

⇒ 夜勤帯の職員の追加配置に替えて、見守り支援機器を全室に設置した場合でも介護報酬上の加算を算定できるように、次期介護報酬改定に向けて国に対して要望

5 令和2年度の実施の方針

これまでの事業成果等を踏まえ、北九州モデルの更なる普及拡大に向けて取り組む

- ⇒
- ・北九州モデルの横展開に向けたガイドライン（マニュアル）の作成
 - ・北九州モデルの導入を支援するための拠点づくり
 - ・介護ロボットマスター育成講習（人材育成）
 - ・現場ニーズに沿った機器等の開発・改良支援
 - ・次期介護報酬改定に伴う国への要望・提案
 - ・市内の介護施設における北九州モデルの導入試行
 - ・先進的介護に関するシンポジウムの開催